

【 どうすれば鑑別診断を効率良く絞り込めるのか？ 】

前回は、『不明熱→感染性心内膜炎、リンパ腫、SLE…』というように、症状ごとに疑われる疾患のリストを作ってあげれば、鑑別診断を正しく挙げられるようになる」ということをお話ししました。

しかし、「リストを作ってあげれば直ちに診断できる！」というわけではありません。なぜなら、内科学教科書の“バイブル”と言われる『ハリン内科学』には、不明熱の鑑別診断として200以上もの疾患が列挙されているからです。では、不明熱の患者さんには200以上に及ぶ疾患を想定した身体診察や検査をしなければならぬのでしょうか。

そんなことはありません。わざわざ身体診察

や検査をしなくても、簡単な問診をするだけで数多くの疾患を効率良く除外することができるからです。海外渡航歴がなければ輸入感染症が、動植物接触歴がなければ人獣共通感染症が除外できます。野外活動歴がなければライム病が除外できますし、性交渉歴がなければ梅毒が除外できます。

「ライム病→野外活動歴のある人の不明熱で考える(=なければ除外可能)」、「梅毒→性交渉歴のある人の不明熱で考える(=なければ除外可能)」というように、疾患ごとに“ポイントとなる病歴”を事前にまとめておきましょう。そうすれば効率良く鑑別診断を絞り込めるようになるはずです。

Medical News

2017年8月
Vol.122

Shinko Hospital

Contents

- *特集：循環器内科
[身近に潜む二次性高血圧]
- *開業医探訪
[いわくら耳鼻咽喉科]
- *感染症科医のつぶやき
- *Information
・講演会のご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救命医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL: 078-261-6711 (代表)
FAX: 078-261-6726
URL: <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者: 理事長 山本 正之
編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 検索

<http://www.shinkohp.or.jp/>

[特集 循環器内科]

身近に潜む二次性高血圧

二次性高血圧について

現在、高血圧の患者は約4300万人といわれており、日本人の3人に1人が高血圧という計算になります。高血圧は日本人の三大死因の中の二大疾患である脳卒中や心臓病を引き起こす最も主要な要因となっています。

高血圧は、ある特定の原因が関与する二次性高血圧と、原因を特定できない本態性高血圧に分類されます。二次性高血圧は、通常の治療で目標血圧を達成することが難しい治療抵抗性高血圧を呈することがある一方、原因を同定し適切な治療を行うことにより、効果的に血圧を降下させることができます。

高血圧治療ガイドライン2014(JSH2014)において、初診時の高血圧管理計画の第二ステップとして、二次性高血圧を除外することが示されており、このことから二次性高血圧の可能性を念頭に置いて高血圧

診療に当たることが重要であると考えます。

原発性アルドステロン症について

原発性アルドステロン症(PA)は、二次性高血圧のうち最も頻度の高い内分泌性高血圧であり、高血圧患者の5~10%に認めます。1954年にConnによりPAの第一例が報告されており、当初は比較的希な二次性高血圧とされていました。しかしながら、近年PAのスクリーニング法の普及や、CTなどによる画像検査の普及に伴いPAの診断率が向上し、また腹腔鏡により、開腹手術より低侵襲で治療を行えるようになったことで、注目を浴びるようになってきました。

PAは主に、片方の副腎からアルドステロンの過剰分泌を認めるアルドステロン産生腺腫(APA)と両側からアルドステロンの過剰分泌を認める特発性アルドステロン症(IHA)に分類されます。

PAの特徴の一つとして低カリウム血症がありますが、実際に低カリウム血症を呈することはあまり多くありません。血圧のコントロールに難渋することも多く、本態性高血圧と比べて、脳・心血管・腎臓などの合併症の頻度が高いと報告されています。

PAの治療は片側病変か両側病変であるかによって異なります。両側病変の場合は、アルドステロン拮抗



高血圧センター長 亀村 幸平
Kohei Kamemura

平成10年に徳島大学を卒業。日本循環器学会認定循環器専門医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医、日本心血管インターベンション治療学会認定医などの資格を持つ。

剤を中心とした薬物治療になります。それに対して片側病変では、腹腔鏡による病側副腎摘出術が勧められますが、手術を希望されない場合は、薬物治療になります。

PA診療手順 *図2

まず高血圧の患者に対して、血漿アルドステロン濃度(PAC)、血漿レニン活性(PRA)を測定しスクリーニングを行います。アルドステロン・レニン比(PAC/PRA比、ARR)が200以上であれば陽性です。ホルモンの値は採血時刻、体位による影響を受けるため、早朝から午前9時、約30分の安静臥床後での採血が望ましく、また降圧剤の影響も受けるため、カルシウム拮抗剤あるいはα遮断薬を内服の場合は問題あり

PAのハイリスク群
① 50歳以下の高血圧
② 低カリウム血症を合併
③ II度(中等症)以上の高血圧 (収縮期血圧 > 160 mm Hg または 拡張期血圧 > 100 mm Hg)
④ 治療抵抗性高血圧(降圧薬 3 剤以上)
⑤ 副腎偶発腫瘍の合併
⑥ 40歳以下で標的臓器障害

図1 PAのハイリスク群

Information

Info 1 第25回研究カンファレンス (個の医療研究会共催)

- ◆ 日時: 2017年8月24日(木) 18時00分~19時00分
- ◆ 場所: 神鋼記念病院 呼吸器センター 5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町 1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 特別講演: 「細菌検査はどのように行われているのか?」
~正しい検体採取方法から検査結果の判読まで~
演者: 神鋼記念病院 感染対策室 室長 高橋 敏夫
- ◆ その他: 日本医師会生涯教育認定講座 1単位

講演内容

感染症診療を行うためには細菌検査(微生物検査)が適切に行われることが必須です。適切な細菌検査とは、検体の採取から実際の検査・報告まで全てが含まれます。今回の講演内容は、実際の細菌検査方法から、最新の検査方法などを一部紹介したいと考えています。また講演形式は、一部を参加型の講演会として聴講者と考えながら進行することで、実際の細菌検査を模擬体験しながら進めたいと考えています。細菌検査(微生物検査)に興味のある方のご参加をお待ちしております。

日本医師会生涯教育認定講座の修得にあたり、
当日芳名録にて医籍登録番号の記入が必須となりましたのでご用意ください

【講演会に関するお問い合わせ】 神鋼記念病院 総合医学研究センター 担当: 兒山
TEL: (078)261-6711(代表)・FAX (078)261-6726

